

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「ローマ人への手紙 1 章 29-30 節では、同性愛だけでなく、陰口や中傷も、殺人や神への憎しみと並ぶ罪として挙げられている、
という事実は、私たちに深く考えさせるものである。」(ジャスティン・ピーターズ)

A ゲイ・キリスト教の誤ったアイデンティティ イロザリア・バターフィールド博士著

ゲイ・キリスト教（同性愛者としてのアイデンティティとキリスト教の信仰を両立させている人々や、その立場）の希望のない福音は、私たちが警戒すべき欺瞞的な信仰です。

罪深い衝動に身を任せていないとしても、キリスト教が自らを同性愛者と呼ぶのは間違っているのでしょうか？もしその人が貞潔を守っているキリスト教であれば、性的アイデンティティを表明することは、望まない縁談や、善意ではあるものの誤った考えを持つ教会員からの気まずい質問を避けるのに役立つなど、有益な祝福となる可能性はないでしょうか？そして、もしこれら全てが真実であるならば、私たちの教会は同性愛のキリスト教のための支援グループを設け、彼らが互いに励まし合い、彼らの感情や葛藤に共感できるコミュニティを持つべきではないでしょうか？結局、フランスコ教皇は 2020 年 10 月に同性カップルのシビルユニオン（市民結合）を支持する発言をし、キリスト教徒に次のように呼びかけました。「同性愛者にも家族の一員となる権利があります。彼らは神の子であり、家族を持つ権利があります。同性愛を理由に、誰も排除されたり、不幸にさせたりしてはなりません。」

フランスコ教皇ほど左派的な立場を取らないとしても、この主張は明白です。性的アイデンティティは、人の人生において最も重要な側面の一つだからです。

ニューヨークで活動家として、また終身在職権を持つ英文学教授として、10 年間レズビアンとして生き、LGBTQ の権利擁護活動に携わってきた私、そして現在は聖書に基づいた結婚をした牧師の妻として、子供と孫を持つ者として、私は断言できます。同性愛を信仰に取り入れることは、罪深い衝動に駆られているかどうかに関わらず、サタンが仕掛けた罠なのです。「ゲイ・キリスト教」は、性的活動の有無にかかわらず、聖書に基づくキリスト教とは異なる宗教です。教皇の言葉は、性的アイデンティティ (LGBTQ)こそが真の自己であり、性差（男性と女性）は心理的な選択であるとする文化に都合よく合致しています。

教皇は聖書よりも文化を優先していますが、真の信者にはそのような権利はありません。ゲイ・キリスト教は福音に何かを付け加え（特に、性的指向は不変であり、真の自己を表すというフロイトの考え方）、福音から何かを奪い取ります（創世記では、男性または女性として生まれることは、私たちの神の似姿としての永遠の特徴であるとされています）。ゲイ・キリスト教は教会に深刻な、場合によっては致命的な誤りをもたらします。

この問題に対処するためには、教会内のゲイ・キリスト教運動における二つの関連する側面、すなわち欺瞞的な信仰と希望のない福音について考察する必要があります。

欺瞞的な信仰

キリスト教は神から「自分たちの召しと選びを確かなものとするように、いっそう励みなさい。これらのことを行っているなら、決してつまずくことはありません」（ペテロ第 1:10）と召されています。主はペテロを通して、シンプルなお問いを投げかけています。「あなたは本当にキリスト教ですか？どうしてそう言えるのですか？」

回心とは、私たちの人生をキリスト、すなわち聖書に記された真のキリスト、私たちの想像上のキリストではなく、真のキリストに委ねることを意味します。委ねた人は、その委ねる条件を自分で決めることはできません。委ねた人は、神の目に自分が真にどのような存在であるかを知らなければなりません。主は私たちに、男性か女性かという一つの人格を与えてくださいました。つまり、私たちは男性として、あるいは女性として生まれた者として、創造の定めに従って生きることで、神の似姿を反映するのです。

「同性愛があなたの本質である」という考えは、サタン（フロイトを通して）から来ています。たとえあなたが、同性愛が自分の感情を表していると感じていても、それは「あなたの本質」ではありません。もしあなたが同性愛を自分自身だと信じているなら、同性愛を罪として戦うことは不可能です。なぜなら、この罪は人格や性的魅力の持続性といった他の領域にまで及んでいるからです。キリスト教として、あなたの役割は、自分自身を憎むことなく罪を憎む方

法を学ぶことです。もしあなたが自分を同性愛のキリスト教と称し、罪を人格に組み込んでしまっているなら、それは選択していない罪である以上、明確に罪を攻撃することはできません。

すべての罪はアダムとエバの堕落によって私たちにもたらされました。アダムにおいて、私たちは皆、神が憎むものを求めるように生まれてきました。私たちの中には、同性への性的欲求を抱く人もいます。キリスト教は、選択していない罪も含め、罪と向き合うよう召されています。キリストにおいて、キリストの教えに従って、同性愛という罪と闘うキリスト教として、これは神の現実の中で生き、神の武器を用いて罪と戦うことを意味します。キリストにおいて二重国籍は存在しません。キリスト教は、片足を世俗（同性愛者としてのアイデンティティ）に、もう片足を教会に置くことはできません。しかし、同性愛者のキリスト教徒は教会内で自分を「性的少数者」とみなすため、同性愛という罪の赦しではなく、キリストが被害者や社会から疎外された人々に与える慰めを主張する。この誤った考え方は、特にセラピー重視の現代社会において、非常に魅力的な罠となっている。

ローマ人への手紙 1 章では、キリスト教が同性愛との戦いに敗れる可能性のある 3 つの方法が示されています。パウロはこれらを「交換」と表現しています。

第一に、私たちは栄光を堕落と交換してしまいます（ローマ 1:23）。これは、同性愛の欲望が私たちの人生において変えられない部分であると考えることによって起こります。

第二に、私たちは真理を偽りと交換してしまいます（ローマ 1:25）。これは、同性愛は単なる感情ではなく、私たちの本質であり、私たちの人生の根幹をなす真理であり、私たちの人生がそれにかかっていると考えることによって起こります。これは偽りです。あなたについて真実なのは、あなたが聖なる神の似姿であるということです。

第三に、私たちは創造の秩序（創世記 1~3 章）を、「自然に反する」機能不全な性行為と交換してしまいます（ローマ 1:26~28）。創世記 1 章と 2 章の明確な教えを受け入れ、聖書に基づく

結婚とその子孫繁栄への呼びかけを支えるという崇高な使命を担う者として、私たちは息子、娘、叔父、叔母、兄弟姉妹として結ばれます。

これらのやり取りの展開を見落としてはなりません。「同性愛」という墮落したアイデンティティは、私たちが命をかけて守ろうとする嘘となり、子孫繁栄を欠いた不毛な人生（「自然に反する」とはこういう意味です）を確固たるものになります。しかし、同性愛のクリスチャンは、聖書の無謬性を放棄した文化、いわゆるキリスト教文化でさえも、公民権保護の旗印の下に行進するため、これらのやり取りは、罪を犯すというよりも、むしろ進歩として捉えられます。

対照的に、キリストの勝利に生きる信者は、神の方法で罪に対処します。それは、罪を減ぼすことによってです。偉大なビュリタン、ジョン・オーウェンは、『罪の減ぼし』の中で、この欺瞞的で誘惑的な敵を打ち負かすための力強い論考を提示しています。同性愛・クリスチャンという罪に囚われている人にとって、特に重要な点が4つあります。

第一に、罪を断ち切らなければなりません。つまり、同性愛の友人関係を築いたり、同性愛文化に身を置いたり、自らを同性愛・クリスチャンと名乗ったり、同性愛への親近感を煽るような罪に手を染めたりしてはならないということです。ゲイ・プライド・パレードやリボイス・カンファレンス（歴史的なキリスト教の教え（伝統的な結婚と性の教義）を守りつつ、キリストを信じる LGBTQ+/同性愛指向（SSA）のクリスチャンが信仰とアイデンティティに向き合うための、米国を拠点とするコミュニティおよびカンファレンス）への参加、同性愛ポルノ（言うまでもなく）も禁じられています。

第二に、罪を正しく認識しなければなりません。罪を「罪」と呼ぶべきです。自分の感情の表れだと考えてしまう罠に陥ってはなりません。キリストの血の下、十字架上の罪を見つめ、キリストは、ご自身の子どもたちが友となることを意図した罪のために死んだのではないことを心に留めておくべきです。

第三に、罪を減ぼさなければなりません。罪を根絶し、他の何物にも入り込む余地を残さない覚悟が必要です。毎朝目覚めるたびに、自ら選んだ罪に、一分一秒ごとに百本の釘を打ち込む覚悟でいなければなりません。これは戦いであり、パーティーではありません。

第四に、私たちはキリストにある命を育み、御言葉を味わい、教会生活に深く日々身を置き、祈禱会に出席したり主催したり、交わりを深め、もてなしを実践し、聖書を信じる教会に会員契約を通して加わり、自制心と慎み深さの価値を知る大人として契約上の義務を果たす必要があります。そして、教会生活において、長老や親しい友人たちは、あなたが抱える深い葛藤を知り、祈りの中であなたを支えてくれるはずですが、しかし、もしあなたが愚かにも、全世界があなたの同性愛の感情を知る必要があると考えているなら、それは危険な間違いです。同性愛という罪に公民権を与えたこの世界では、クリスチャンが世のやり方に従って「カミングアウト」するのは安全ではありません。あなたのすべきことは、何度も何度もキリストのもとに来ることです。あなたと、自分を同性愛者と呼ぶ不信者との違いは、あなたには主がいるということです。そして、キリストとの結びつきは霊的で、壊れることのない、かけがえのない、永遠のものであります。

希望のない福音

ゲイ・キリスト教の福音は、聖書が説く福音とは異なります。同性愛は不変であると主張し、性欲を含む人生のあらゆる面で根本的な変化をもたらした回心者の誠実さを疑います。クリスチャンが変化を遂げた人間であるという考えを軽蔑します。しかし、変化こそが福音の核心です。聖書における変化こそが、聖化の真髄なのです。

聖書には、救いを求めて神に叫び求める人に、厳しい変化を伴わずに、神が愛を与え、救いの信仰の祝福を授けるという記述はどこにもありません。その変化は、キリストの十字架とそこから流れ出る贖いによってもたらされるものであり、外的な事柄における行動の修正や道徳的な向上によってもたらされるものではありません。コロサイ人への手紙3章5節は、信者に外的な行動だけでなく、それを駆り立てる悪しき欲望をも減ぼすようにと呼びかけています。

創世記6章5節とマルコによる福音書7章20～23節は、人間の墮落と、それがもたらした原罪が、私たちの心の奥底にある欲望の深淵に腐敗を植え付けていることを明らかにしています。そしてエペソ人への手紙4章22～24節は、私たちの内なる存在をキリストの義に倣うように変革することを求めています。

同時に、聖書は、真のクリスチャンは皆、この

内なる葛藤を抱えていることを慈しみ深く示しています。「肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているのです、あなたがたは願っていることができなくなります」（ガラテヤ人への手紙5章17節）。しかし、私たちの主は——パウロはローマ人への手紙6:11で私たちにこう思い出させています。私たちの召しは、絶望することではなく、キリストに希望を置き、毎日、私たちの選択に新たな釘を打ち込むことなのです（コロサイ人への手紙3:1、3:5）。

栄光を受けるまで、私たちのだれもが自らの選択による罪の誘惑から完全に解放されることはありません。そして、同性愛者であることを自認するクリスチャンにとって、これは岐路となります。同性愛の欲望、能力、あるいは行為は、聖霊の力によって断固として戦わなければならない不法な罪の表現なのでしょうか、それとも単に社会的な善の多様な表現なののでしょうか。聖書はこの問いに明確な答えを与えています。

同性愛の罪と闘うクリスチャンは、どのようにすれば最もよく神に栄光を帰すことができるのでしょうか。それは、キリストの方法で罪と闘うことによってです。キリストと共になら何でも可能であることは分かっていますが、栄光を受けるまで誰も完全に聖化されないことも分かっています。ここで、ジョナサン・エドワーズの言葉が私たちの良心を慰めてくれます。

「まさに、生まれ持った気質を考慮に入れなければならない。回心によって生まれ持った気質が完全に根絶されるわけではない。回心前に生まれ持った性質上最も陥りやすかった罪は、依然として最も陥りやすいものかもしれない。しかしながら、回心はこれらの罪に関しても大きな変化をもたらす。恵みは不完全ではあるが、悪しき生まれ持った気質を根絶するものではない。しかしながら、それを正す力と効力は大きい。……もし回心前に生まれ持った性質上、特に好色、酪酊、あるいは悪意に傾きやすかった人がいたとすれば、回心の恵みはこれらの悪しき性質に関してその人に大きな変化をもたらす。したがって、たとえ彼が依然としてこれらの罪に最も陥りやすいとしても、それらはもはや彼を支配することではなく、または彼の本来の性格となることもない。」 Ω

<お知らせ Announcement>

- ★6月14日（日）子どもの日・花の日 子ども限定・準ポットラック（子どもの喜びそうなものを持ち寄り自由）
- ★6月21日（日）父の日ポットラック

MGFはキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「あなたがた [MGF] は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。